

図2によると、市町村就学指導審議会で「特殊学級入級適」と判断され、特殊学級に入級している児童の適応率は、八十パーセント台と高くなっております。その判断結果がおおむね正しかったことを裏づけています。しかし、「適応していない」と評価された十パーセント台の児童については、就学先等について、再度、見直す必要があると思います。一方、「特殊学級入級適」と判断されても、通常の学級に在籍している児童の適応率は、特殊学級に在籍児に比べ大変低くなっています。この結果は、これらの児童の就学指導に関して一層の努力の必要を示しているといえます。

五、まとめ

一口に、心身障害児といってもその障害状況は多様であり、加えて、適応の状況も様々です。適応の問題は、個人とそれを取り巻く環境の両面から考えることが大切です。したがって、心身障害の適応の問題も心身障害児の側だけに視点をあてたのでは、片手落ちになります。

最後に、心身障害児の適正就学を進め方について整理してみます。

まず、市町村就学指導審議会での慎重な判断結果をもとにした就学指導が、心身障害児の生活面、学習面での適応を図るための大前提であり、就学指導の基本といえます。今回の資料でもこのことが裏づけられています。

表2 心身障害児の適応状況に関する調査項目

① 児童名(昭和 年 月 日)	② 性別(男・女)	③ 在籍校	④ 学年
⑤ 在籍学級	⑥ 障害名とその状態	⑦ 市内就学指導審議会の審議の有無とその結果	⑧ 市町村就学指導審議会の審議の有無とその結果
⑨ (生活面)	⑩ 身辺自立ができていますか	⑪ 一人で登校・下校ができていますか	⑫ 身のまわりの整理・整頓ができていますか
⑬ 係や当番の仕事ができていますか	⑭ (集団参加・対人関係遊び)	⑮ 喜んで通っていますか	⑯ 出欠の状況はどうですか
⑰ 他の子供と一緒に遊べますか	⑱ 遊びのきまりがわかりますか	⑲ ゲームのルールがわかりますか	⑳ 忘れ物の貸し借りができますか
㉑ 相手や時、場所に応じて挨拶ができていますか	㉒ 相手の話をきいて理解することができていますか	㉓ 簡単な伝言を相手に伝えることができていますか	㉔ 自分の要求をこぼして伝えることができていますか
㉕ 自分が経験したことを話すことができていますか	㉖ (学習面)	㉗ 乗じて学習していますか	㉘ 進んで学習していますか
㉙ 次の時間の学習の用意ができていますか	㉚ 先生の指示や説明を理解していますか	㉛ 学習内容を理解していますか	㉜ 落ち着いて学習していますか
㉝ (その他)	㉞ この子供は現在の学級での学習に適応していると思いますか	㉟ この子供は現在の学級生活に適応していると思いますか	㊱ この子供の現在の学級での学習に到達していると思いますか
㊲ この子供にはどんな学習集団・学習内容が適当だと思いますか	㊳ この子供の現在の学級での取り扱いにどう感じていますか		

〈質問例〉

11. 身のまわりの整理・整頓ができていますか  
 (1) 自分  
 (2) 自分以外の  
 (3) 他の子供の  
 (4) わかりません

12. 身のまわりの整理・整頓ができていますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

13. 身のまわりの整理・整頓ができていますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

14. 身のまわりの整理・整頓ができていますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

15. 身のまわりの整理・整頓ができていますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

16. 遊びのきまりがわかりますか  
 (1) わかる  
 (2) 内容・場面  
 (3) わからない  
 (4) わかるが守れない

17. 忘れ物の貸し借りができますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

18. 相手や時、場所に応じて挨拶ができていますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

19. 相手の話をきいて理解することができていますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

20. 簡単な伝言を相手に伝えることができていますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

21. 自分の要求をこぼして伝えることができていますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

22. 自分が経験したことを話すことができていますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

23. 乗じて学習していますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

24. 進んで学習していますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

25. 次の時間の学習の用意ができていますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

26. 先生の指示や説明を理解していますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

27. 学習内容を理解していますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

28. 落ち着いて学習していますか  
 (1) できる  
 (2) できるが  
 (3) できない  
 (4) わからない

図1 特殊学級及び通常の学級に在籍している心身障害児の項目9-31における「～できる」「～わかる」「～している」等と評価された比率

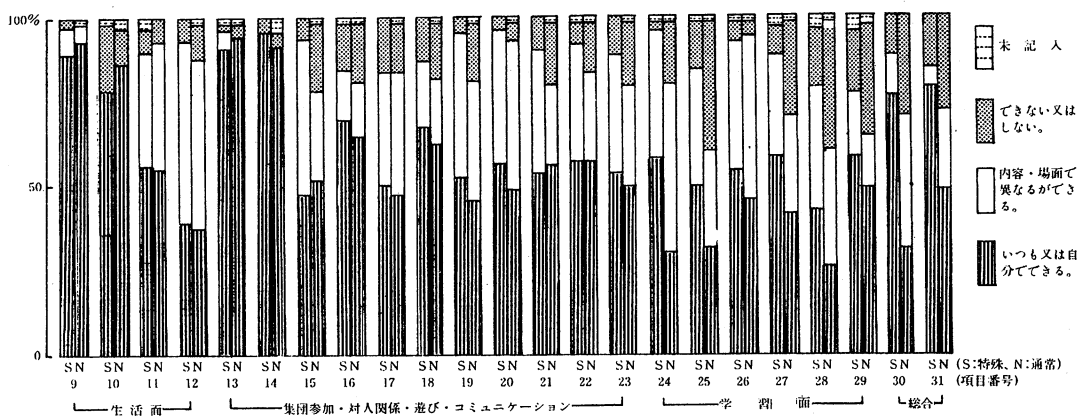
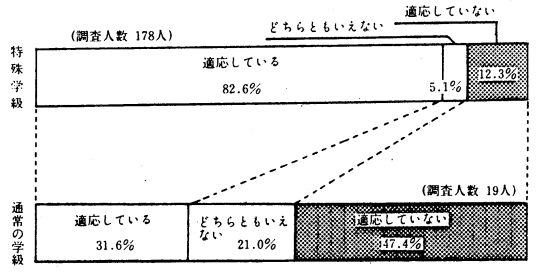


図2 市町村就学指導審議会で「特殊学級入級適」と判断された児童の適応状況(学習面) (30. この子供は現在の学級での学習に適応していると思いますか)



次に、心身障害児が、学校生活に適応していくためには、基本的な生活習慣を身につけ、集団参加・対人関係・遊び・コミュニケーション等がうまくでき、周囲から認められたり、お互いに助け合える態勢づくりが大切となります。そのための指導のあり方をしっかりとっておさえた養護教育に対する取り組みが必要でしょう。

更に、学習面の結果では、精神薄弱や情緒障害等が認められる場合、一斉指導が困難であるとの指摘が多かった事実は、小集団での学習や個別指導の工夫が、従前にもまして必要度を増してきていることを意味します。このことは、特殊学級のあり方にも深くかかわることなので、腰をすえて取り組む必要があるでしょう。